

小高小学校・小高中学校の

施設検証に基づく

新しい学校の位置の検討について

南相馬市教育委員会

1.はじめに

1

1.はじめに

(1) 本資料作成の目的

■保護者の皆さまからの声にお答えするために

これまでの保護者座談会や意識調査などで、「小学生と中学生が一緒の校舎でサイズ感は大丈夫?」「一緒の校舎で支障はないの?」「改修はどれぐらい必要なの?」など多くの貴重なご意見・ご質問をいただきました。

■疑問や不安を解消し、一緒に考えるために

こうした疑問や不安を少しでも解消するため、施設の現状や学習環境、財政負担などの視点から客観的な検証を行いました。

その上で、**新しい学校の位置（小高小学校・小高中学校のどちらがより適しているのか）**を、あらためて皆さまと一緒に考えるための**判断材料**として、本資料を作成しました。

(2) 今回、説明する内容

【今回、説明する内容】

- 「義務教育学校へ再編する際の「施設の基本的な考え方（方針）」 P3
- 「基本的な考え方(方針)に照らし合わせた検証」 P5
- 検証を踏まえた新しい学校の位置の提案 P23
- 校舎レイアウトのイメージ P27

2

2.義務教育学校へ再編する際の 「施設の基本的な考え方（方針）」

3

2.義務教育学校へ再編する際の「施設の基本的な考え方（方針）」

【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

義務教育学校として9年間を見据え、前期・後期それぞれの発達段階に適した機能や諸室の共用・効率化が無理なく図れる空間を整備する。

【方針2】既存施設の有効活用と財政負担の抑制

既存の校舎施設を最大活用し、将来の維持管理費や改修負担を抑えた持続可能な学校運営を実現する。

4

3.基本的な考え方(方針)に 照らし合わせた検証

5

3－1.市が考える義務教育学校へ再編する際の必要な諸室

前期（小学校）＋後期（中学校） 9クラス規模の義務教育学校を想定

種別	主な教室	考え方	備考
普通教室	普通教室、特別支援教室	各学年の普通教室と、必要な特別支援教室を確保	普通教室 9 室 特別支援教室 4 室
特別教室	理科室、音楽室、図工・美術室、家庭科室、技術室、図書室など	前期・後期で共用し、必要な機能を確保しながら効率的に配置	理科室は授業数(授業時数)が多いことから前期・後期用で 2 室確保 図工と美術は兼用とし、図工・美術室として配置
管理諸室	職員室、事務室、保健室、教育相談室など	学校全体を一体的に運営できるよう、前期・後期で共用することを基本	教育相談室は教育相談などに柔軟に対応できるよう、前期・後期用で 2 室確保
その他	グラウンド、体育館、プール	前期・後期で共用し、体育授業、学校行事、部活動、水泳学習などに活用	

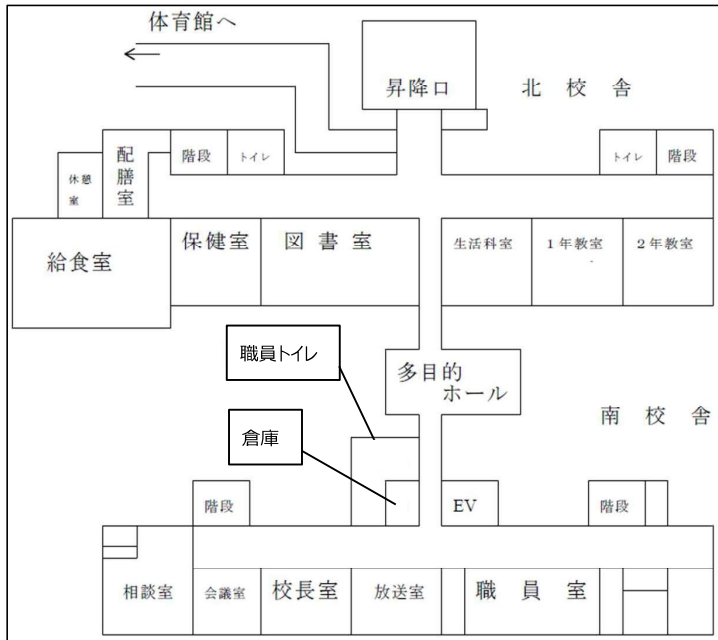
6

3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

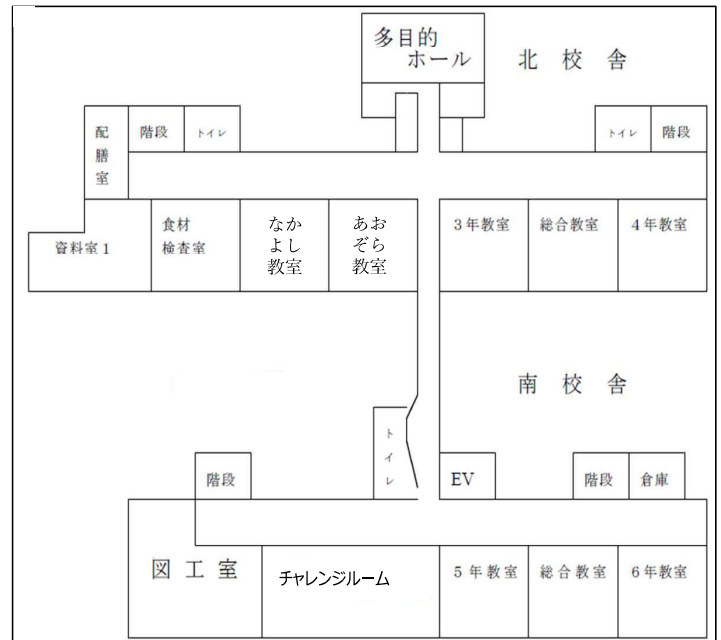
■義務教育学校として9年間を見据え、前期・後期それぞれの発達段階に適した機能や諸室の共用・効率化が無理なく図れる空間を整備する。

(1) 小高小学校校舎の現在のレイアウト

校舎レイアウト【1階】



校舎レイアウト【2階】

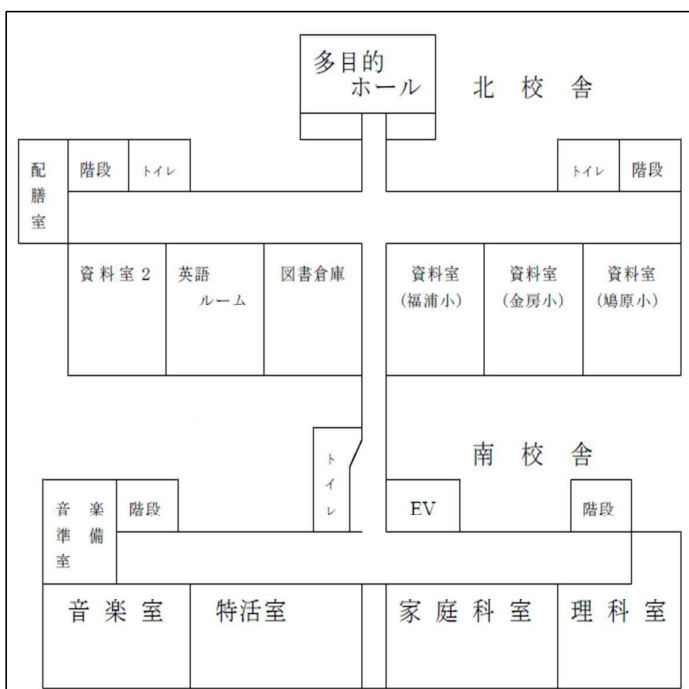


7

3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(1) 小高小学校校舎の現在のレイアウト

校舎レイアウト【3階】

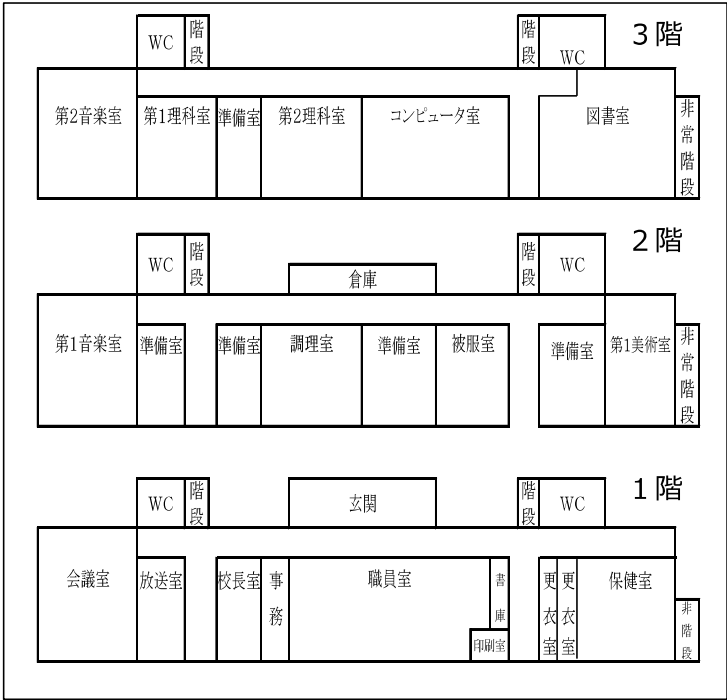


8

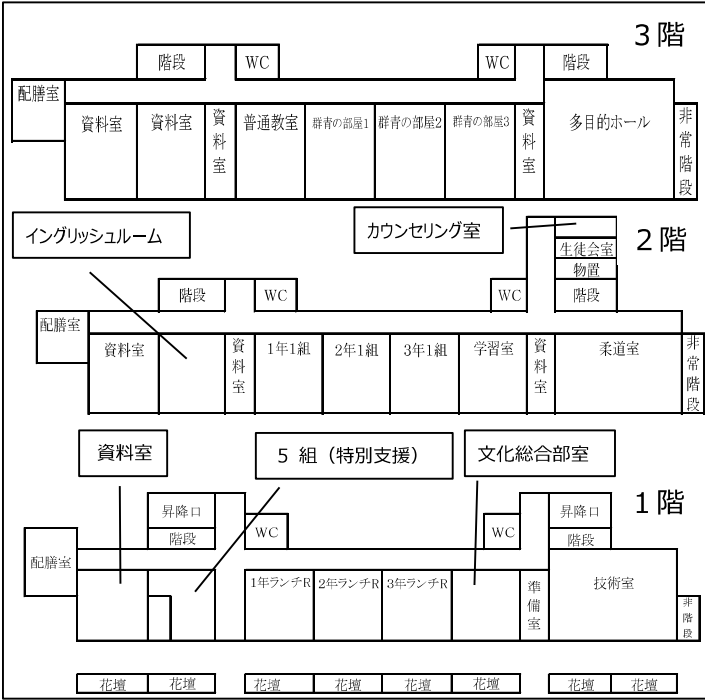
3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(2) 小高中学校校舎の現在のレイアウト

校舎レイアウト【北校舎】



校舎レイアウト【南校舎】



3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(3) 施設が一体化した際の校舎の比較

①小高小学校・小高中学校の校舎の概要

※R8.5.1現在 【構造について】R C：鉄筋コンクリート造

学校名	小高小学校								小高中学校							
	建物名	構造	階数	面積 (㎡)	面積 (合計) (㎡)	建築年月日	建築年数	耐震性	建物名	構造	階数	面積 (㎡)	面積 (合計) (㎡)	建築年月日	建築年数	耐震性
建物概要	北校舎	R C	3	3,012	5,260	H 4 5	34	○	南校舎西	R C	3	1,154	5,504	S 47 9	53	○
	南校舎	R C	3	2,248		H 5 3	33	○	南校舎東	R C	3	1,811		S 49 12	51	○
									北校舎	R C	3	2,539		S 50 1	51	○

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	耐震性の違い	耐震基準を満たしている	耐震基準を満たしている
2	建築年数の違い	小高中学校と比較し、最も建築年数の差がない建物で17年、最も差がある建物で20年新しい	小高小学校と比較し、最も建築年数の差がない建物で17年、最も差がある建物で20年古い
3	構造の違い	RC（鉄筋コンクリート）造	RC（鉄筋コンクリート）造
4	階数・面積の違い	3階建て 244㎡（普通教室約4部屋分）小さい	3階建て 244㎡（普通教室約4部屋分）大きい
5	防災ハザード等の状況	津波浸水想定区域外。 大雨による浸水想定区域に位置しているが、校舎のほとんどが0.5m未満の区域に入っていることや、建物はRC造3階建てであり、大雨等の際は校舎上階への垂直避難等が可能であるため、安全上の問題は低い。	津波浸水想定区域外。 大雨による浸水想定区域外であり、体育館が指定避難所となっている。

3－2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(3) 施設が一体化した際の校舎の比較

②教室等の比較

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	普通教室	普通教室は足りる	普通教室は足りる
2	特別教室	前期課程用の理科室の新設が必要 美術準備室の新設が必要 技術室・技術準備室の新設が必要 後期課程用、前・後期課程共用の作業台への入れ替えが必要	前期課程用、前・後期課程共用の作業台等への入れ替えが必要
3	管理諸室	職員室の拡張が必要	改修不要で活用可能の見込み
4	その他	更衣室の拡張が必要	前期課程低学年用に、手洗い場等へのステップ配置が必要

11

3－2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(4) 施設が一体化した際のグラウンドの比較

①小高小学校及び小高中学校のグラウンドの面積

学校名	グラウンドの面積 (㎡)
小高小学校	8,415
小高中学校	28,728

■一体化した際に想定される事項等の比較

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	面積	文科省の設置基準によるグラウンドの必要面積は、小学校2400㎡、中学校3600㎡であり、必要面積は十分確保	文科省の設置基準によるグラウンドの必要面積は、小学校2400㎡、中学校3600㎡であり、必要面積は十分確保
2	体育授業の対応	想定される児童生徒数では対応可能	想定される児童生徒数では対応可能
3	部活動の対応	- サッカーや野球といった球技等では制限があるが、日々の練習や少人数での活動、種目に応じた運用上の工夫で対応可能 - テニスコートをどうするか検討が必要	- 十分な広さがあり、複数活動の同時実施に適している - テニスコートが設置されている
4	利用環境	人工芝生が設置されいて、安全面への配慮が図られている	十分な広さがある
5	改修の必要性	バックネット設置やライン表示の整備等が必要	低学年用遊具等の設置が必要

12

3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(4) 施設が一体化した際のグラウンドの比較

②保護者の疑問、不安・懸念点への市教育委員会の考え方

「小学校と中学校が1つになるのにグラウンド等が1つで問題ないのか？」

○グラウンド使用予定表（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1校時	1年生（小）	3年生（小）	5年生（小）	1年生（中）	3年生（中）
2校時	1年生（小）	3年生（小）	5年生（小）	1年生（中）	3年生（中）
3校時	1年生（小）	3年生（小）	5年生（小）	1年生（中）	3年生（中）
4校時	2年生（小）	4年生（小）	6年生（小）	2年生（中）	
5校時	2年生（小）	4年生（小）	6年生（小）	2年生（中）	
6校時	2年生（小）	4年生（小）	6年生（小）	2年生（中）	

○上記の表は以下の条件で作成したグラウンド使用予定表（例）。

- ・年間35週と仮定し、小中学校の体育科の標準時数※を行う。
- ・すると1週間の体育の時間はおよそ3時間となる。（詳細はスライド24に記載）

○上記の表のように、**すべての学年が1週間グラウンドで体育をしたとしても重複せず体育を行える。**

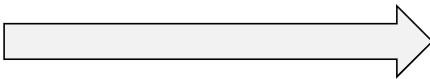
※標準時数：文部科学省が学校教育法施行規則で定めている、各教科ごとに年間で最低限

実施すべき授業時間数。「1単位時間（小学校45分、中学校50分）」として計算 **13**

3-2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(4) 施設が一体化した際のグラウンドの比較

③【参考】小学校と中学校の体育科の標準時数と1週間の授業数見込

学 年	標準時数（時間）		年間35週と仮定した際の 1週間の体育科のコマ数	1週間の授業数 （年間35週と仮定）	
	小学校	中学校		小学校	中学校
1年生	102	105		3	3
2年生	105	105		3	3
3年生	105	105		3	3
4年生	105	—		3	—
5年生	90	—		2.5	—
6年生	90	—		2.5	—
合 計	597	315		17	9
合 計 (小中)	912			26	

3－2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(5) 施設が一体化した際の体育館の比較

小高小学校及び小高中学校の体育館の概要

学校名	構造	階数	体育館の面積 (㎡)	アリーナの 大きさ (m)	アリーナの 面積 (㎡)	建築 年月日	建築 年数	耐震性
小高小学校	鉄骨造	2	1,373	26×34	884	H6.3	32	○
小高中学校	鉄骨造 鉄筋コン クリート造	1	1,350	約 38.5×28	約1,078	S51.3	50	○

■一体化した際に想定される事項等の比較

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	建築年数	平成6年3月建築（建築後32年）	昭和51年3月建築（建築後50年）
2	面積の違い	ほぼ同程度だが、アリーナ面積が約194㎡小さい	ほぼ同程度だが、アリーナ面積が約194㎡大きい
3	授業対応	授業は問題なく可能	授業は問題なく可能
4	部活動の対応	バスケットボール等の部活動を行う場合は、移動式バスケットゴールの設置の対応により実施可能 卓球は対応可能	対応の必要なし
5	改修の必要性	中学生用ラインの引き直しが必要	改修不要で活用可能の見込み
6	エアコン設置	令和12年度設置予定	令和9年度設置予定

15

3－2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(6) 施設が一体化した際のプールの比較

小高小学校及び小高中学校のプールの概要

学校名	面積 (m)	水深 (cm)	コース数
小高小学校	25×17	0.9～1.1	6
小高中学校	50×17.5	1.2～1.3	7

■一体化した際に想定される事項等の比較

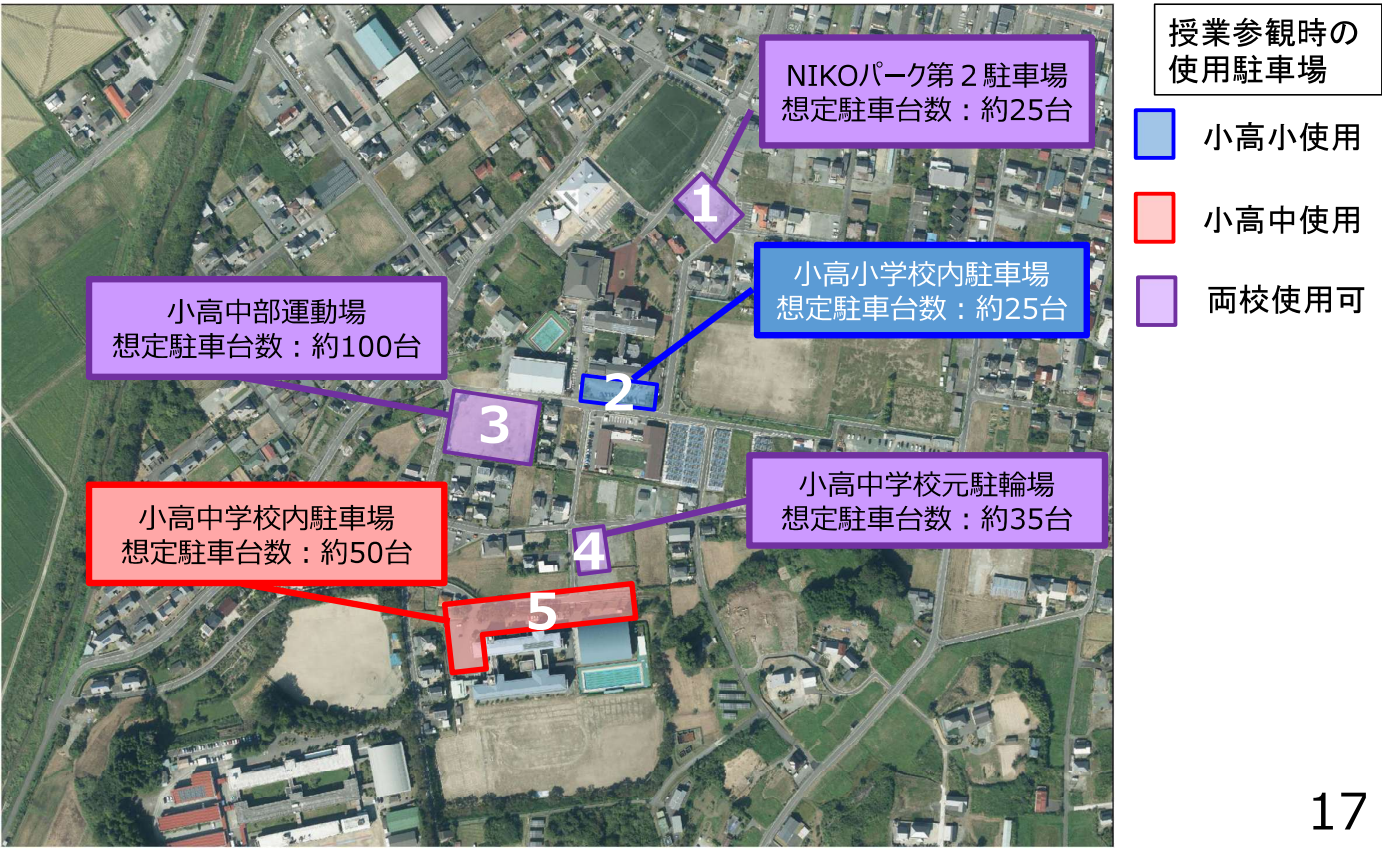
No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	建築年数	平成6年3月建築（建築後32年）	昭和51年11月建築（建築後49年）
2	面積・水深の違い	学校プールの標準サイズ	競技用サイズ
3	授業対応	小学生・中学生どちらも可能	小学生・中学生どちらも可能
4	利用環境	中学生利用に問題なし	水深が低学年児童には深いため、床上げ等の対応が必要
5	改修の必要性	改修せず、中学生の授業利用に対応可能	水深が低学年児童には深いため、床上げ等の対応が必要

16

3 – 2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(7) 施設が一体化した際の駐車場数の比較

①各学校とその周辺駐車場の場所と想定駐車台数



3 – 2.【方針1】小中一貫教育を円滑に展開する質の高い学習環境の確保

(7) 施設が一体化した際の駐車場数の比較

②授業参観の際の想定駐車台数の比較

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	学校敷地内駐車場の 駐車可能台数	約25台駐車可能	約50台駐車可能
2	近隣の駐車場を 利用した場合の 駐車可能台数	約185台駐車可能	約210台駐車可能
3	児童・生徒数	86	53
4	職員数	24	25
5	一体化した際の 想定必要駐車台数	146 ※（児童数＋生徒数）×70%＋教員数で算出	
6	評価	どちらの学校施設に施設が一体となっても、現在の駐車場台数で 対応可能	

※児童生徒数は令和12年度想定人数
※世帯数の割合は令和8年度の実績68.4%より
※職員数は令和8年度学校要覧より
※駐車場所については両校の授業参観時の使用駐車場所を参考

3-3.【方針2】既存施設の有効活用と財政負担の抑制

■ 既存の校舎施設を最大活用し、将来の維持管理費や改修負担を抑えた持続可能な学校運営を実現する。

(1) 施設の耐用年数等

学校名		小高小学校	小高中学校
建築年		平成4年～5年度 (築33～34年)	昭和47年～昭和50年度 (築51～54年)
耐用年数	長寿命化改修あり	令和54～55年度 (残46～47年)	令和34～37年度 (残26～29年)

※「築年数」、「残年数」は「建築年度」より算出(建築月は考慮していない)

【長寿命化とは？】

建物を将来にわたって長く使い続けるため、耐用年数を伸ばすこと。

【長寿命化改修とは？】

長寿命化を行うために、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を求められる水準まで引き上げる改修を行うこと。

出典：南相馬市学校施設長寿命化計画及び維持管理計画より

3-3.【方針2】既存施設の有効活用と財政負担の抑制

(2) 施設が一体化した際に必要な工事の概要

工事施工箇所		工 事 概 要	
		小高小学校	小高中学校
校舎	普通教室	ロッカー入替（後期課程用5教室）	ロッカー入替（前期課程用8教室）
	理科室	・第1理科室（前期課程用）の新設 ・第2理科室に準備室新設、実験台の入替（後期課程用）	・第1理科室（前期課程用）の改修 実験台の入替（前期課程用に）
	家庭科室	・調理台の入替（前・後期課程共用） ※調理台は被服台と兼用タイプ	・調理室調理台入替 ・被服室被服台入替 （共に前・後期課程共用）
	図工・美術室	・図工室の工作台入替（前・後期課程共用） ・準備室の新設	・美術室に工作台設置 （前・後期課程共用）
	技術室	・技術室・技術準備室の新設 工作台の設置（後期課程用）	
	その他	・職員室の拡張 ・給湯室改修 ・更衣室の拡張	・前期課程低学年用に、各所にステップを設置（手洗い場等）

3 – 3.【方針2】既存施設の有効活用と財政負担の抑制

(3) 義務教育学校開設に必要な概算工事費

①義務教育学校開設までに必要な工事費

工事施工箇所	小高小学校	小高中学校
校 舎	約9,000万円	約5,000万円
体育館	約200万円	
プール		約2,500万円
工事費計	約9,200万円（約0.9億円）	約7,500万円（約0.8億円）

※グラウンド整備 及び 体育館エアコン整備の工事費除く

② 義務教育学校開設後に必要な工事と工事費

工事施工箇所	工 事 概 要	
	小高小学校	小高中学校
校 舎	長寿命化改修：約20億円	長寿命化改修：約16億円
体育館	長寿命化改修：約1.5億円	長寿命化改修：約1.5億円
工事費計	約21.5億円	約17.5億円

③ 義務教育学校開設及び開設後に必要な工事費の合計（①+②）

学校名	小高小学校	小高中学校
①義務教育学校開設までに必要な工事費	約0.9億円	約0.8億円
②義務教育学校開設後に必要な工事費	約21.5億円	約17.5億円
工事費計	約22.4億円	約18.3億円

3 – 3.【方針2】既存施設の有効活用と財政負担の抑制

(4) 「既存施設の有効活用と財政負担の抑制」の比較表

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校
1	建築年数 (建物の新しさ)	新しい (平成6年3月建築/築約32年)	古い (昭和51年3月建築/築約50年) ※小学校より約17~21年古い
2	長寿命化後の 残存期間 (将来使える期間)	より長期間使用できる (中学校より約17~21年長く活用可能)	活用期間に限りがある (小学校より残存期間が短い)
3	改修工事費 (初期の財政負担)	約4億円高い (中学校と比較して一時的な負担が大きい)	約4億円安い (小学校と比較して一時的な負担を抑えられる)
4	将来の施設 運営・更新 (持続可能性の視点)	建築年が新しく、今後も長く使用できるため、将来の再生改修や建て替えまでの期間を長く確保でき、長期的な施設管理に有利	学校再編に係る工事費を抑えられるが、老朽化や次の更新時期が小学校よりも早く訪れる
5	総合的な評価	一時的な財政負担は大きくなるが、建築年が新しく長期にわたり使用できるため優位性あり	改修費の負担は小さく抑えられるが、建物の古さや残存期間の面で制約が大きい

4. 検証を踏まえた 新しい学校の位置の提案

23

4. 検証を踏まえた新しい学校の位置の提案について

- 以上の比較を踏まえ、両校とも義務教育学校としての活用は可能であるが、各施設に特徴がある。これらを総合的に整理し、新しい学校の位置について提案する。
- 検証比較の前提条件として、現在の学校施設等が、想定する義務教育学校規模の条件を十分に満たしているかどうかを○△で評価している。

(1) 検証の比較

No.	比較項目	小高小学校	小高中学校	説明
1	校舎	○	○	必要な教室等数は両校とも確保されている。小高小学校と比べ、小高中学校は保有教室等に余裕があるため、より柔軟な対応が可能である。
2	グラウンド	○	○	必要なグラウンドの広さは両校とも確保されている。一方、小高小学校ではバックネットの設置や、小高中学校では遊具の設置が必要になる。
3	体育館	○	○	必要な体育館の広さは両校とも確保されている。一方、小高小学校ではバスケットゴールの高さ調整やラインの引き直しが必要になる。
4	プール	○	○	必要なプールの広さは両校とも確保されている。小高中学校では、低学年児童が安全に使用できるよう床上げ等の対応が必要になる。
5	駐車場	○	○	想定される駐車台数の駐車場は両校とも確保されている。
6	既存施設の有効活用 財政負担の抑制	○	△	耐用年数・工事費を総合的にみて長期間使用できる小高小学校に優位性がある。

24

4. 検証を踏まえた新しい学校の位置の提案について

(2) 新しい学校の位置の提案

【提案】

施設の状況や今後の財政負担等、総合的な観点から、
新しい学校の位置は

「小高小学校」を提案します。

【理由】

理由1：校舎が新しく、長く使えます

理由2：必要な整備で9年間の学びの環境を確保できます

理由3：低学年に適した環境があります（人工芝など）

※隣接する旧商業高校跡地の利活用方法については、現在、小高区地域振興課で検討を行っています。

今後、新しい学校の位置が小高小学校に決定した場合には、敷地の一部を新しい学校の敷地として活用できないか、関係機関と協議してまいります。

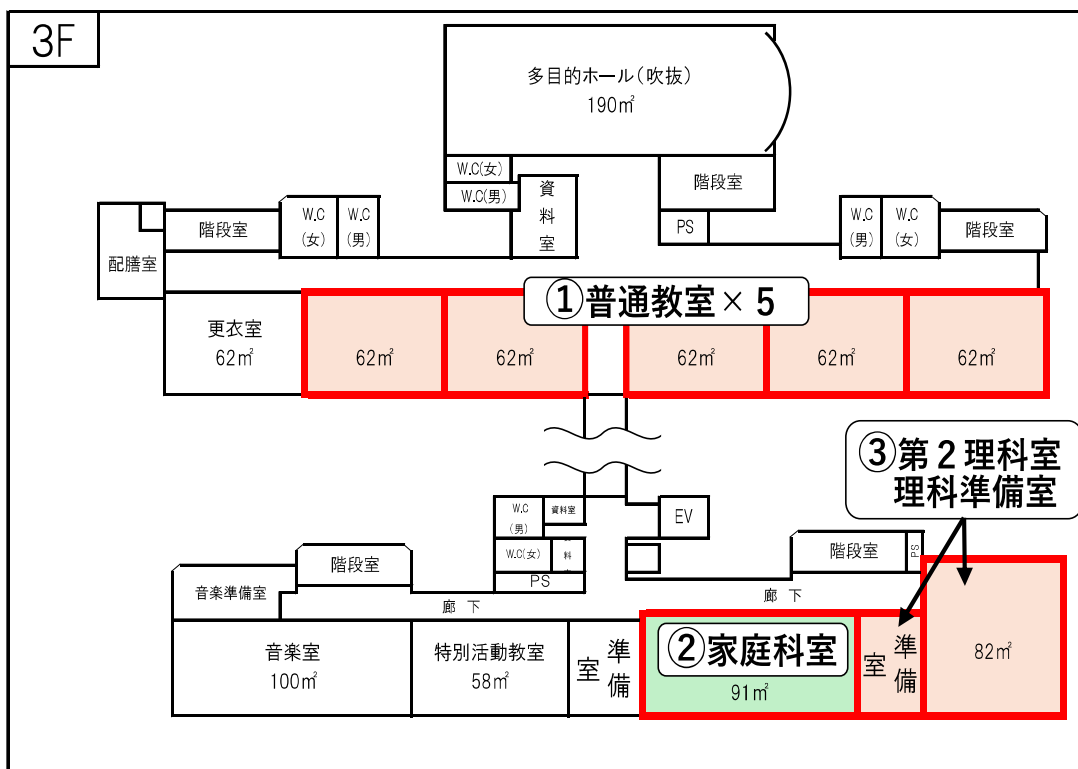
5.校舎レイアウトのイメージ

27

5.校舎レイアウトのイメージについて

小高小学校で義務教育学校を開設する際の改修工事（レイアウト）案

○実際のレイアウトは、これからの協議等を経て、実施設計後に決まります。



主な工事内容

後期課程（中学校）

前課・後期共用

3F～1F共通

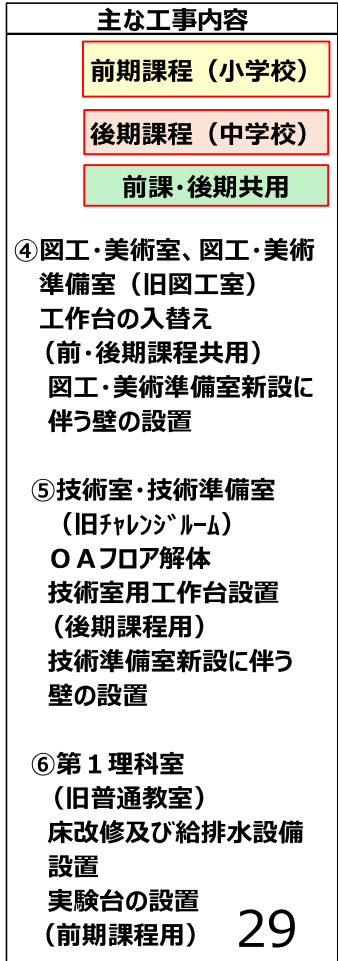
- ・改修工事に支障となる照明・エアコン等は、撤去再設置する。
- ・新設された教室等には、出入口用のドア・引戸・照明等も新たに設置する。
- ・トイレは改修済み（小児用便器はない）

3F

- ①普通教室
ロッカーの入替え（後期課程用）
- ②家庭科室
調理台の入替え（前・後期課程共用）
※調理台は被服台と兼用タイプ
- ③第2理科室、理科準備室（旧理科室）
実験台の入替え（後期課程用）
理科準備室新設に伴う壁の設置

28

○実際のレイアウトは、これからの協議等を経て、実施設計後に決まります。



○実際のレイアウトは、これからの協議等を経て、実施設計後に決まります。

